

キヤノンの環境への取り組み

2025年9月25日

Canon

キヤノングループ環境憲章(1993年制定)

企業理念

共生

環境保証理念

資源生産性の最大化により
持続的発展が可能な社会の構築に貢献

EQCD思想

Environment **Q**uality **C**ost **D**elivery

Environment(環境保証): 環境保証ができなければ作る資格がない
Quality(品質): 品質が悪くなれば売る資格がない
Cost(コスト)Delivery(納期): コスト、納期が達成できなければ競争する資格がない

キヤノングループ環境ビジョン(2008年制定)

「つくる」「つかう」「いかす」
すべての製品ライフサイクルにおいて
より多くの価値を
より少ない資源で提供することで
「製品の高機能化」と「環境負荷の最小化」を
同時に達成

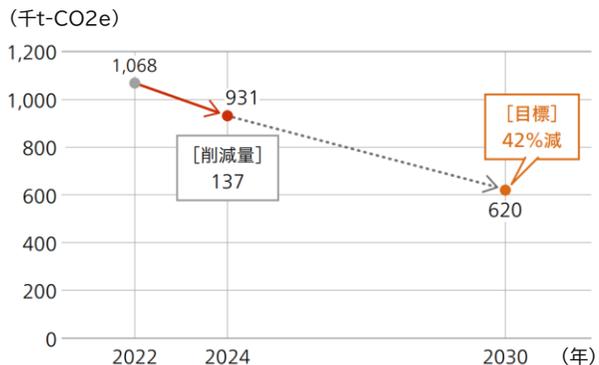
豊かさと環境が両立する未来のために
キヤノンは技術革新で貢献

環境分野で特定した「気候変動」「資源循環」「化学物質」「生物多様性」の4つの重点課題について
製品ライフサイクル全体で環境保全活動に取り組んでいます

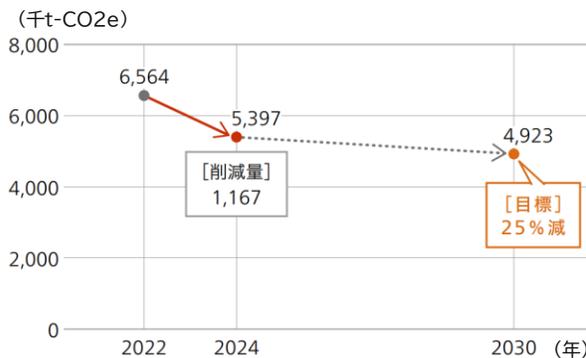
製品ライフサイクル全体で2050年GHGネットゼロを目指す

SBTi認定を取得したGHG排出量削減目標と実績

2030年スコープ1, 2排出量
2022年比**42%削減**

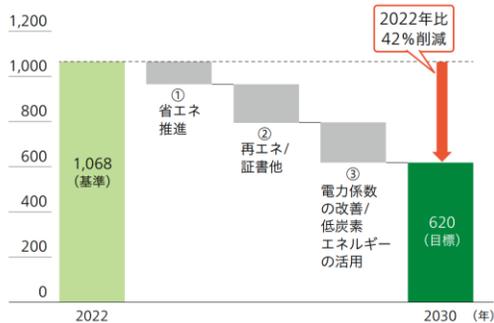


2030年スコープ3排出量
2022年比**25%削減**

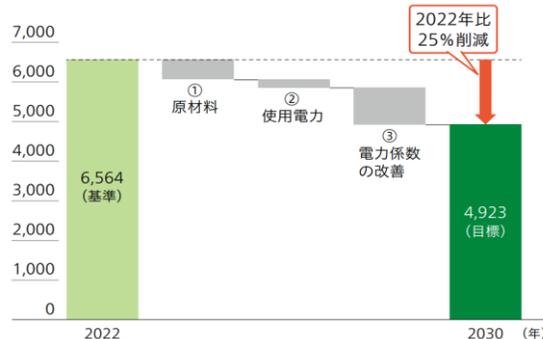


GHG排出量削減イメージ

■ スコープ1+2
(千t-CO₂e)



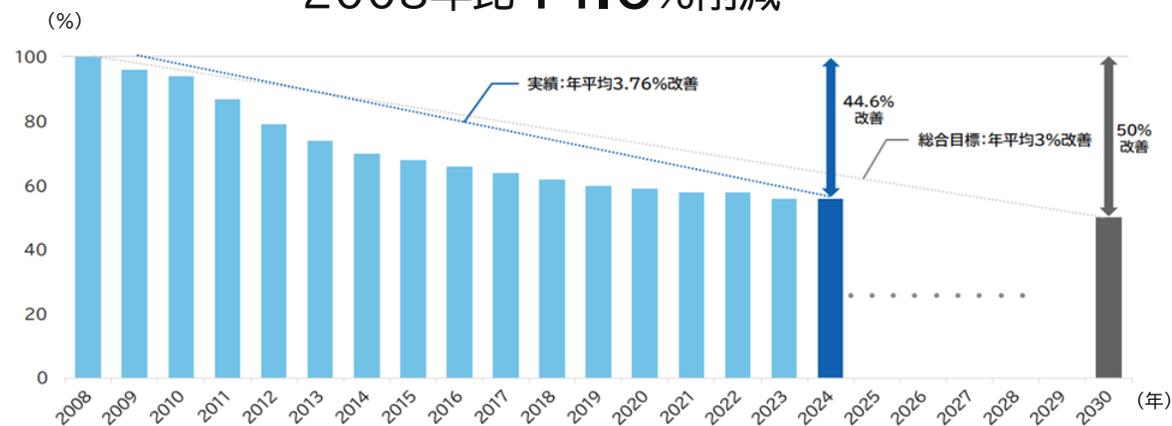
■ スコープ3 (カテゴリ1、11)
(千t-CO₂e)



ライフサイクルCO₂製品1台当たりの改善指数 推移

■ 製品1台当たりライフサイクルCO₂排出量原単位での削減

2008年比**44.6%削減**



資源循環への取り組み

4つの産業別グループ全てが資源循環目標を設定。グループの特色に沿った具体的な戦略を策定
 業界に先駆けて1990年からカートリッジリサイクルを開始するなど、世界各地で資源の有効利用を促進

4つの産業別グループ毎に資源循環目標

グループ	プリンティング	メディカル	イメージング	インダストリアル
資源循環目標	販売総重量に占める再生材の割合を示す資源循環率 2025年:20% 2030年50%	原単位あたりの廃棄物排出量 年率1%削減	新たに設計する小型製品 プラスチック※包装 2030年全廃	装置情寿命化 2001年以降出荷したi線、KrF露光装置 2030年装置可動95%以上

※石油由来のプラスチック。ラベル、コーティングや接着剤に用いる材料は除く。



■ 世界のリサイクル拠点(5拠点)



高度な資源循環を実現する環境活動の発信拠点
キャノンエコテクノパーク
 (日本)



Canon Bretagne S.A.S.
 (France)



Canon Dalian Business Machines, Inc.
 (China)



Canon Giessen GMBH
 (Germany)



Canon Virginia, Inc.
 (U.S.A)



トナーカートリッジ自動リサイクル(CARS-T)



インクカートリッジ自動リサイクル(CARS-I)



複合機リマニュファクチャリング

キヤノンエコロジーインダストリー（CEII）の位置づけ

キヤノングループにおける資源回収/再生の中核拠点

- ・資源循環型社会への貢献（資源回収と再生）
- ・資源生産性の最大化を追求するためのものづくり技術構築
- ・目指すべき循環指標の設定と向上活動
- ・欧米の再生拠点到資源循環スキームを展開



キヤノンエコロジーインダストリーについて

キヤノンエコロジーインダストリーの沿革

2004

● プリンティング事業のリユース・リサイクル拠点として
キヤノンエコロジーインダストリー株式会社 設立

2016

● 「クリーン&サイレント」のコンセプトのもと新棟竣工

2018

● キヤノンの環境活動発信拠点としてキヤノンエコテックパーク 開所



市場回収品



リユース対象の複合機



リユース

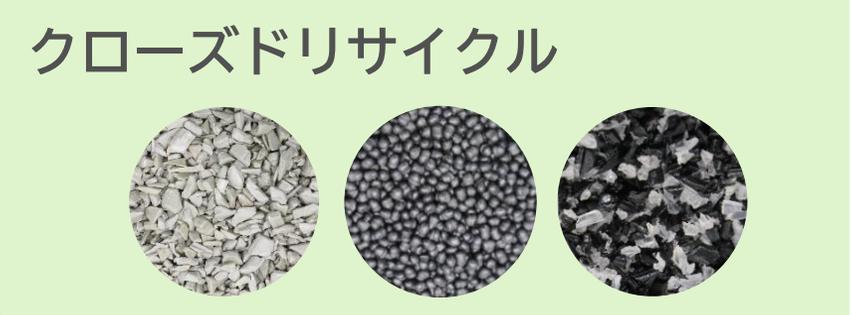


リユース対象以外の複合機・消耗品



特徴：
産業廃棄物処分業許可を取得した
中間処理施設でリサイクルを行っている

リサイクル



■ 資源循環と経済合理性の両立 + 「クリーン&サイレント」なりサイクル工場

経済合理性達成のための自動化・無人化を推進

■ トナーカートリッジリサイクルの完全自動化

■ 複合機受入選別のDX化

■ リサイクル材料仕分け・選別の自動化



トナーカートリッジ自動リサイクル装置CARS-T

プリンティング事業の 資源循環の取り組み

2025年9月25日

Canon

プリンティング事業
～ 資源循環の目指す方向 ～

■ オフィス向け複合機



■ SOHO向けレーザープリンターおよび複合機



■ インクジェットプリンター



■ プロダクションプリンター



■ 大判プリンター



 **我々のビジネスモデルは、リマニュファクチャリングの拡大に適しています。**

リマニュファクチャリングに適している理由

クックビジネス-保守契約型 → 販売後も商品・お客様と強く結び付いています

① ほぼ全量が回収される

保守契約による市場商品の把握・紐づきに加え、
全国に自社回収センターがあり、業界の回収機交換センターも整備されている

② 消耗部品の交換で長期使用が可能

消耗部分の交換により長期使用を前提とした商品設計である：前提条件

③ 稼働時状態のモニタリングが可能

稼働状態、部品交換履歴等がモニタリングでき、部品交換箇所が特定できる



再生型オフィス複合機
「Refreshedシリーズ」
imageRUNNER ADVANCE
C3530F-RG

高度な資源循環の実現による 資源循環型社会への貢献

～ 回収品処理から サーキュラーエコノミー事業への**転換** ～



リマニュファチャリング事業

再生商品 【本体系】



リマニュファチャリング事業

補給商品 【消耗品】【部品系】



リサイクル事業

再生材

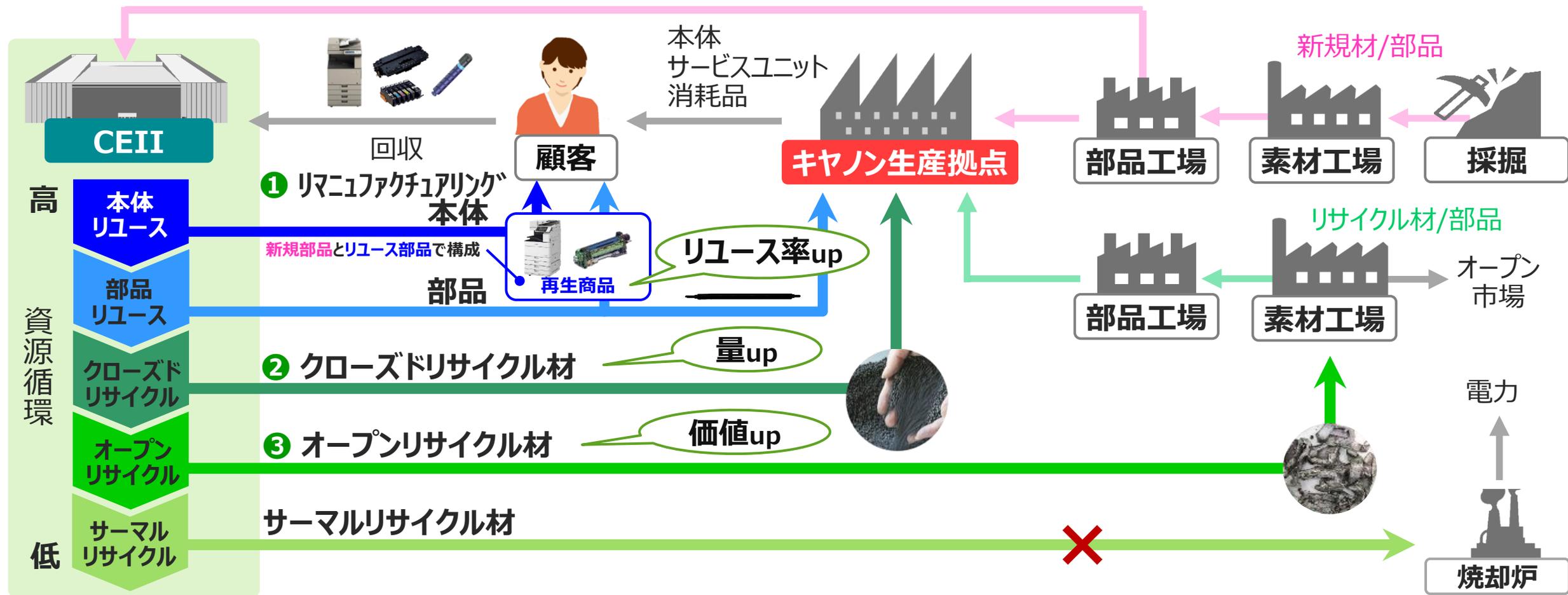


回収



顧客

プリンティング事業の資源循環の目指す方向



《目指す方向》

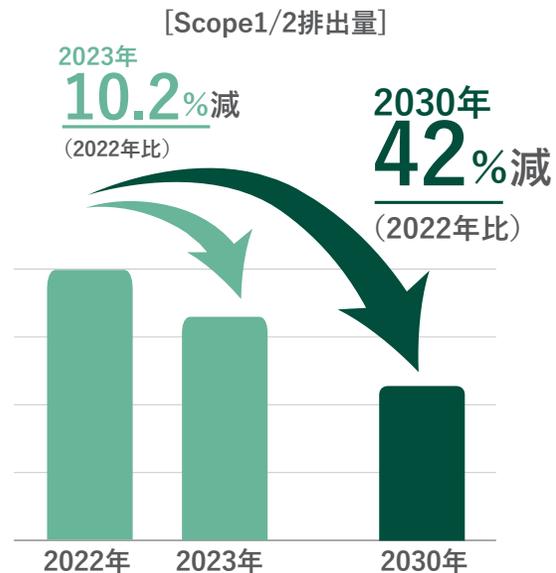
- ① リマニュファクチャリング商品：リユース率向上により原価低減
- ② クローズドリサイクル材：種類・生産量の増加を推進
- ③ 分別純度向上により高付加価値化推進

プリンティング事業 ～ 取り組みの紹介 ～

環境問題への対応をグローバル企業としての使命と捉え、
「脱炭素」「資源循環」の取り組みを進めています。

脱炭素

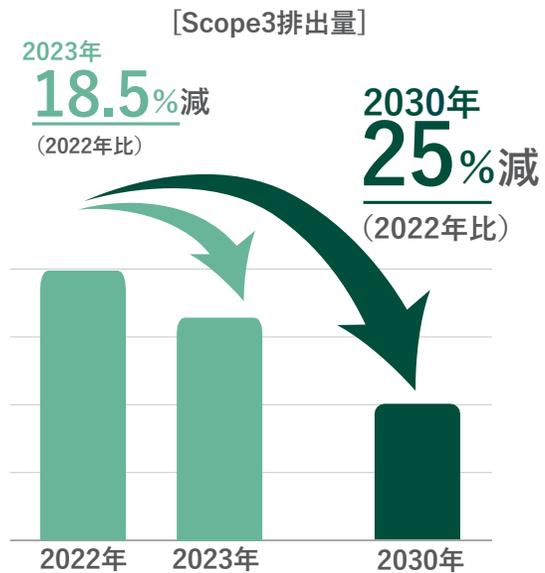
2050年 製品ライフサイクルを通じたCO₂排出量ネットゼロ



2030年 Scope1/2排出量を2022年比で42%削減

Scope1 事業者自らによる温室効果ガスの直接排出
(燃料の燃焼、工業プロセス)

Scope2 他社から供給された電気、熱・蒸気の使用
に伴う間接排出



2030年 Scope3 (カテゴリ1、11) 排出量を
2022年比で25%削減 (SBTiの基準に準拠)

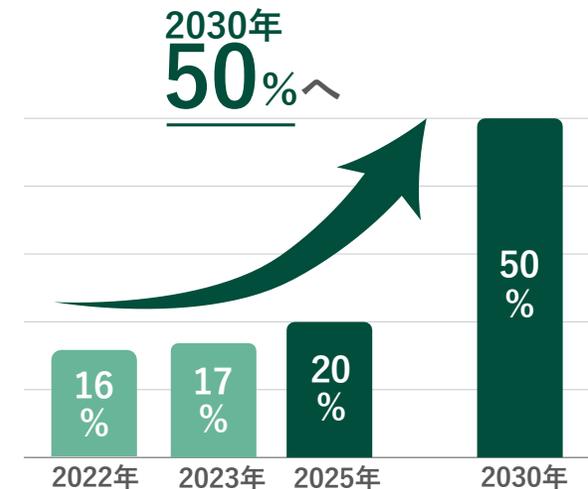
Scope3 Scope1、Scope2以外の間接排出
(事業者の活動に関連する他社の排出)

※実績および目標値はキヤノン全社の値となります。

資源循環

2030年 資源循環率50%

[プリンティング製品全体の資源循環率]



キヤノンの **技術** と **仕組み** により、製品ライフサイクル全体で環境負荷の最小化を推進しています。

技術での取り組み

製品ライフサイクル内のさまざまな「技術」で
脱炭素・資源循環を加速

廃棄・リサイクル

リユース、
リサイクル
しやすい設計

使用・維持

長寿命化と
省エネ

流通

環境負荷の小さい
梱包材の使用



原材料

再生材利用と
小型軽量化

生産

再生可能エネルギーの
活用と省エネ

仕組みでの取り組み

各地域に適した効率的な「仕組み」づくりで
グローバルに資源循環を加速

回収

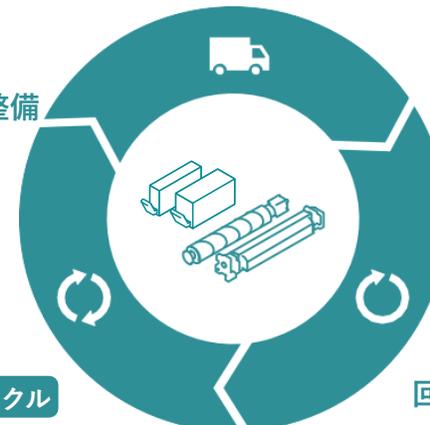
回収網の整備

リサイクル

回収品を処理し
再生材料化

リユース

回収品の再利用



製品ライフサイクルのすべてのプロセスにおいて、
環境負荷を削減する技術や施策を盛り込み、「脱炭素・資源循環」に貢献します。



原材料 : 新規資源の使用量削減

脱炭素

資源循環

- 再生材の採用率を高め、新規資源の使用量を削減
- 小型軽量化で材料使用量を削減

生産 : CO₂排出量を削減

脱炭素

資源循環

- 電力を再生可能エネルギー由来に変更
- 各生産拠点の電力削減、電力量の可視化・分析による省エネ

流通 : 廃棄物の削減

脱炭素

資源循環

- 製品出荷時の梱包材をプラスチック材料から紙などへ変更

使用・維持 : CO₂排出量を削減、新規資源の使用量削減

脱炭素

資源循環

- 製品使用時の消費電力を低減
- 長寿命化で交換頻度や交換部品を削減

廃棄・リサイクル : 新規資源の使用量削減

脱炭素

資源循環

- 部品の共通化による、再利用の促進
- 分解や清掃の容易さ、汚れにくさによる再利用の促進



「再生樹脂」の採用率向上

再生プラスチックの導入、含有率の向上に取り組んでいます。製品本体だけでなく、製品本体に接続するアクセサリや消耗品などにも再生プラスチックを使用することで、新規資源の使用量削減に努めています。

※再生プラスチックを使用した製品には、原材料となるさまざまな色のプラスチックなどにより黒点が発生することがありますが、部品の性能や強度には影響がありません。また再生プラスチック使用部品を含む製品全体の外観の管理も行うことで、キヤノンの品質基準を満たしたものづくりを行っています。

「再生樹脂」の採用率向上



30%以上の再生プラスチックの採用
2024年製品から順次拡大

国内における再生材の活用事例 (キヤノンエコロジーインダストリー株式会社)



市場から回収されたキヤノン製品や消耗品を自社の再生拠点で分別・粉碎・再ペレット化[※]して、トナーカートリッジ等の成型材料として活用

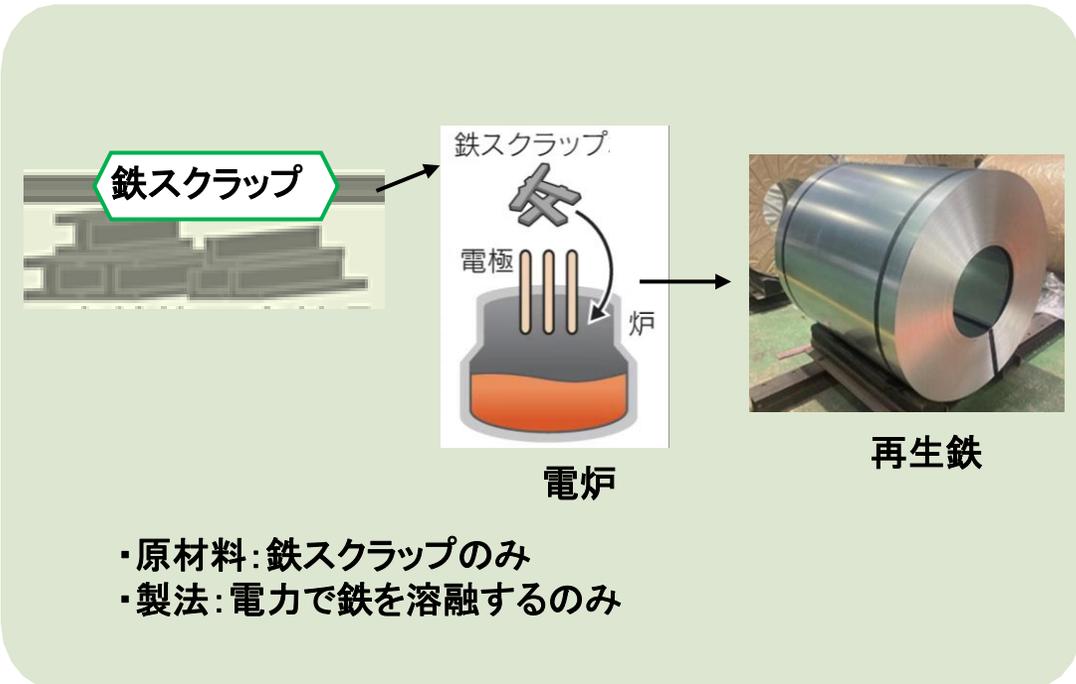
※再ペレット：廃プラスチックから作ったプラスチック原料



「再生鉄」の採用

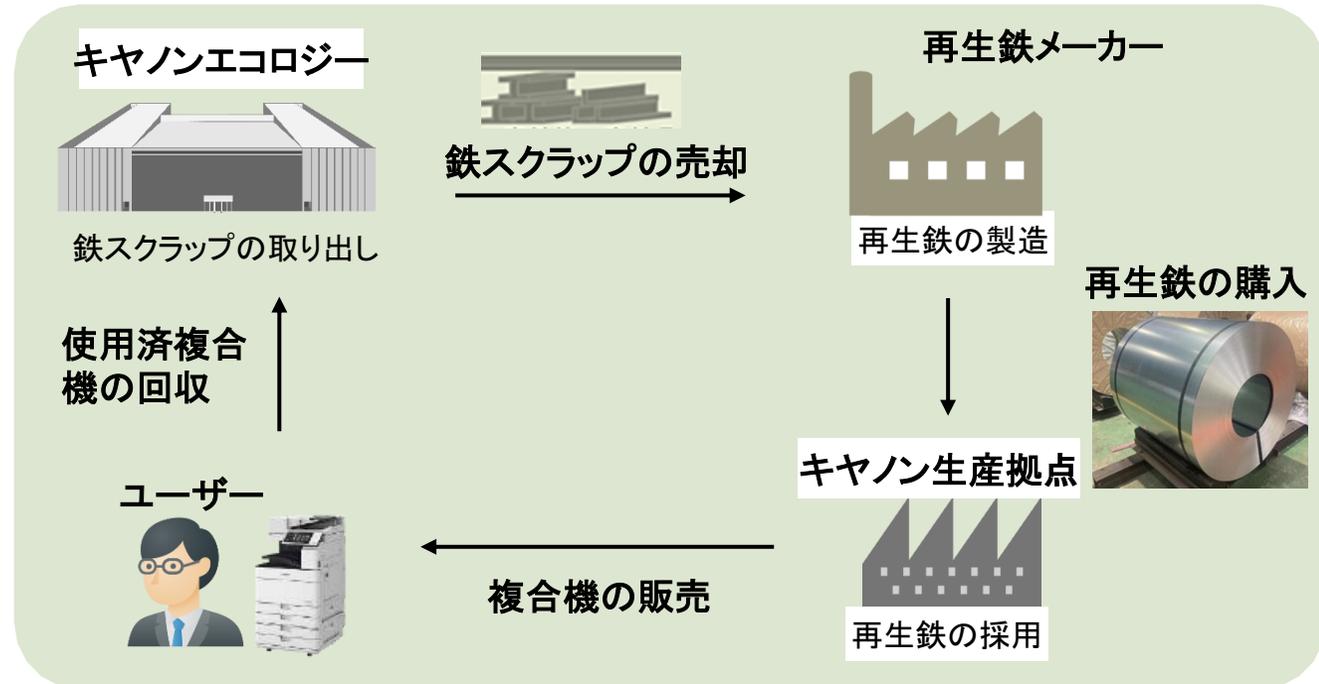
2025年に発売する新製品の一部より、再生鉄（電炉鋼板）の採用を開始します。
今後、再生鉄を採用する製品を順次拡大していきます。

「再生鉄」の製法



鉄鉱石を原料とする一般的な鋼材である高炉鋼板と比較して、
製造時のCO2排出量を約5分の1に抑制

キヤノンエコロジーでのリサイクル



再生鉄のメーカーに鉄スクラップをキヤノンが直接供給



高い部品リユース率を実現した再生複合機

日本[キヤノンエコロジーインダストリー]

対象製品：Refreshedシリーズ ★

欧州[キヤノンギーセン]

対象製品：
imageRUNNER ADVANCE DX ESシリーズ

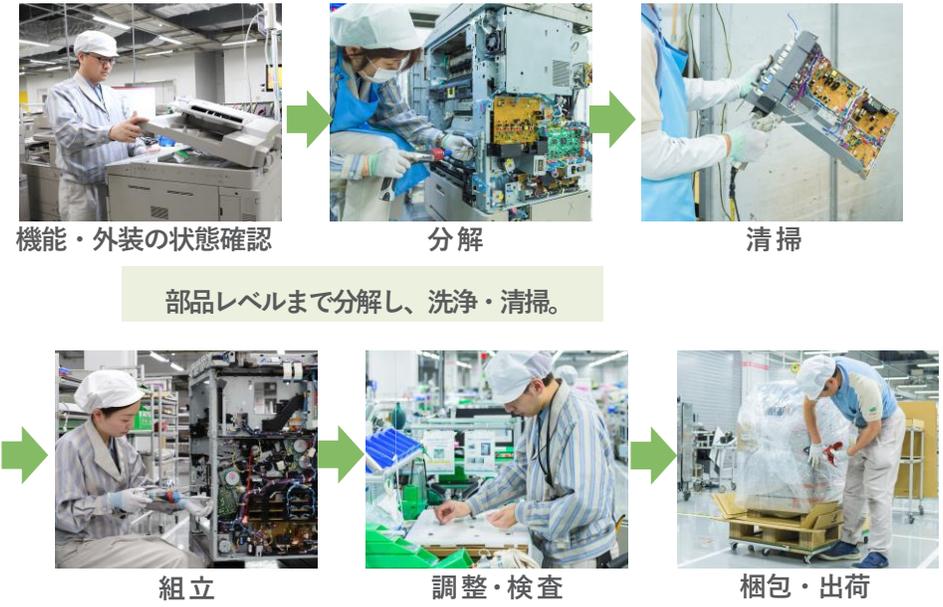
「製品のPF化」によりリユースを推進



日本
imageRUNNER ADVANCE
C3530F III-RG
リユース率 約95%

日本
imageRUNNER ADVANCE
C5550F III-RG
リユース率 約94%

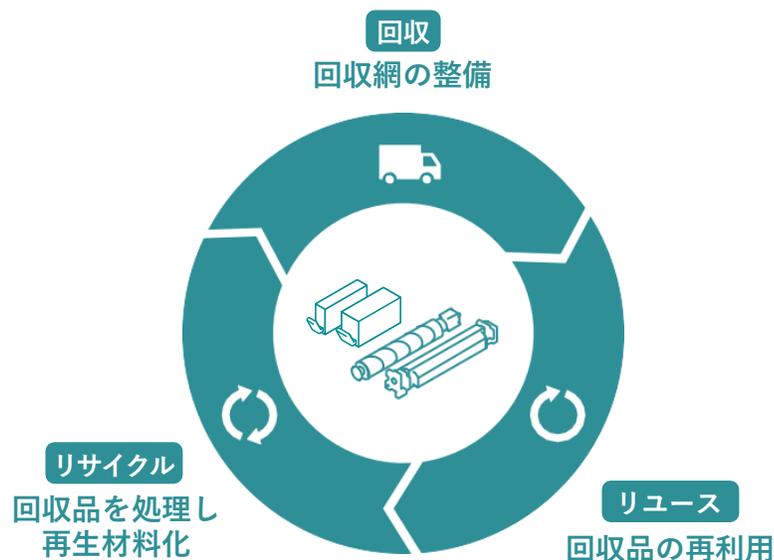
本体の再生



厳密な再生基準に従い、使用できる部品は再利用。劣化・摩耗部品などは交換。

カーボンフットプリント値も新品と比較して
“C3530F III-RG”では約 67%、“C5550F III-RG”では約 59%削減。

グローバルに展開する再生・生産拠点ごとに、最適な仕組みや施策を取り入れ、「資源循環」に貢献します。



回収 : 資源循環の推進

脱炭素

資源循環

・不要になった製品や消耗品を効率良く回収し、再生拠点へ収集

日本国内 回収網の整備

欧米 消耗品の回収強化と拡大

リユース : 資源循環の推進

脱炭素

資源循環

・回収した製品や消耗品を分解・洗浄・清掃、必要な部品交換を行い、厳しい品質基準に照らし合わせて再生

リサイクル : 資源循環の推進

脱炭素

資源循環

・回収した製品・部品から材料の分別を効率良く行い、再生材料化

クローズドリサイクル

回収した使用済みの自社製品を、自社製品の材料として再利用

オープンリサイクル

市場で回収し再生した材料を、自社製品へ再利用
自社で回収し再生した材料を、社外で再利用



「効率的な資源回収」でリユース・リサイクルを推進

製品本体や消耗品の効率的な回収を強化・拡大しています。

回収された部品は、各地の再生拠点でリユース・リサイクルを行っています。



日本 [オフィス向け複合機における国内回収拠点の整備]

日本では全国7ヵ所の回収センターをハブとして、使用済製品を2ヵ所の再生拠点へ送るための物流を整備。ほぼ全量を効率良く回収しています。

2つの再生拠点へ集結
(北海道、沖縄は県内処理)

滋賀 長浜市



那覇

福岡

大阪

名古屋

千葉

仙台

札幌

- 回収センター
- 再生拠点

茨城 坂東市



欧州・アメリカ [消耗品の回収強化・拡大]

欧州では、トナーカートリッジ、インクカートリッジに加えて、各国の販売会社によるトナーボトルの回収を強化しています。



米国では、トナーカートリッジ・インクカートリッジの回収を実施。



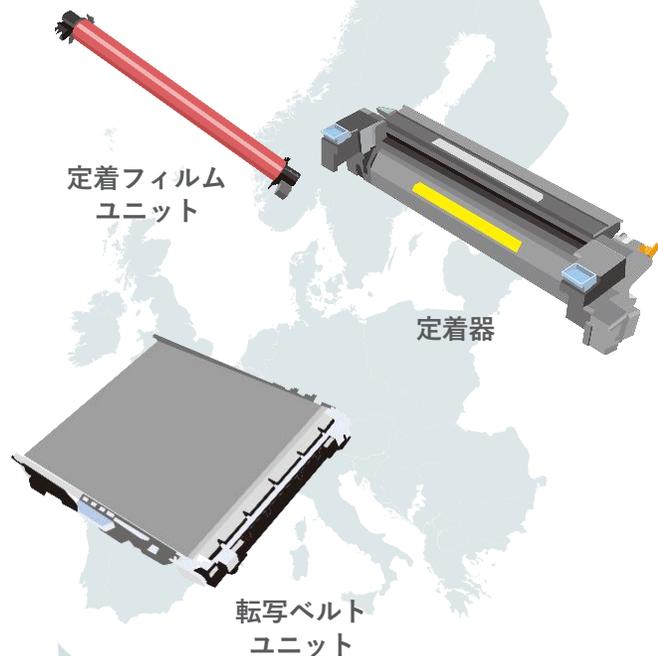


「新品同等の品質管理」で消耗品・部品のリユース推進

市場から回収した消耗品や部品をリユースし、新品同等の品質を達成。
洗浄・清掃、必要な部品の交換を行い、厳しい品質基準のもと出荷しています。
今後もアイテムや実施拠点の拡大を推進していきます。



欧州 [キヤノンギーセン]



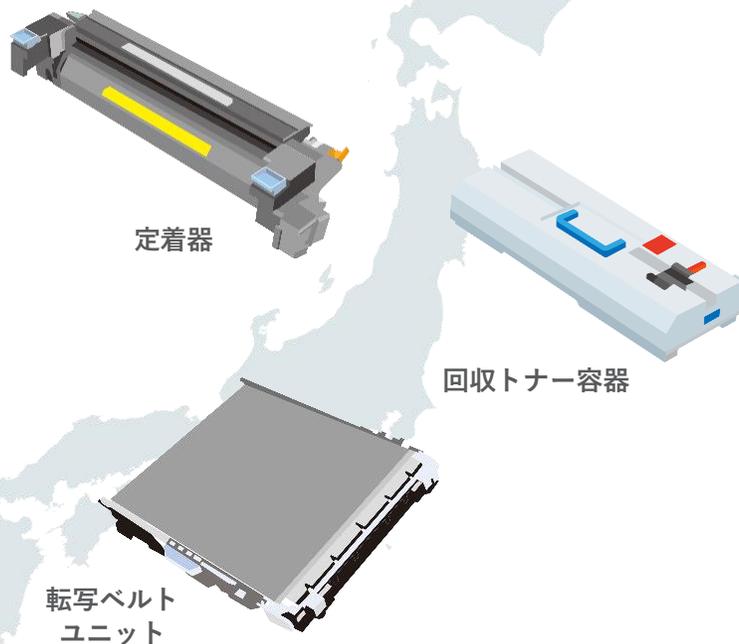
定着フィルム
ユニット

定着器

転写ベルト
ユニット



日本 [キヤノンエコロジーインダストリー]



定着器

回収トナー容器

転写ベルト
ユニット



アメリカ [キヤノンバージニア]



定着フィルム
ユニット

オフィス向け複合機の
定着器内で使用される重要部品
定着フィルムユニットの再生品生産を
2024年4月から開始



「自社で材料化・製品利用」でリサイクル材の活用を推進

市場回収品からプラスチック材を分別し、再ペレット化[※]しています

。リサイクル材として、キヤノングループ内で活用しています。

※ペレット：粒状の形をした合成樹脂（プラスチック）。成形品の原料となるもの

トナーカートリッジのリサイクル

日本 [キヤノンエコロジーインダストリー]



使用済トナーカートリッジを破碎して自動的に分別。主要素材であるHIPS材（耐衝撃性ポリスチレン）を99%以上[※]の高純度で自動再生する自社リサイクルシステムを運用。 ※キヤノンが定める選別方法による



トナーカートリッジを自動で粉碎



高純度なHIPS材料をペレット化し、完成・出荷



カートリッジ生産工場で成型

欧州 [キヤノンプラターニュ] ・ アメリカ [キヤノンバージニア]



フランス・アメリカの再生拠点においても、回収した使用済トナーカートリッジでHIPS材（耐衝撃性ポリスチレン）のリサイクルを実施。



「効率的な材料抽出」でリサイクル材の活用を推進

プリンティング製品には、鉄やアルミ、銅などの金属をはじめ、プラスチック、ガラス、ゴムなど、非常に多くの素材が使用されています。回収した本体を効率良く分解・破碎することで、これらの素材を取り出し、リサイクル材料化しています。キヤノングループ内で使用しない材料については、オープンリサイクル材としての活用を推進。

日本 [キヤノンエコロジーインダストリー]



自動化などで効率性を高め、高品質なリサイクル材を抽出。



分解



自動化も交えて分別



プラスチックの種類を確認、
異材ラベル除去



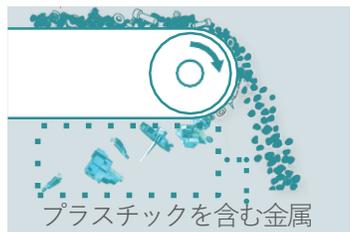
粉碎



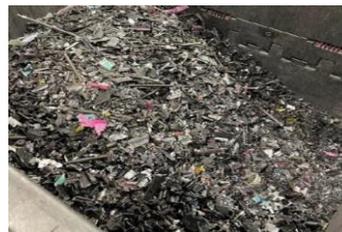
出荷

アメリカ [キヤノンバージニア]

キヤノンバージニアでは、トナーボトル、トナーカートリッジを回収し、リサイクル化。トナーカートリッジでは分別技術を活用した装置を開発し、金属とプラスチックを抽出・分別。



プラスチックを含む金属
磁力によりプラスチックを含む
金属を抽出



プラスチックと金属が
混ざり合った状態で収集



分別装置により金属と
プラスチックを分別